

災害に備える 八代市総合防災訓練



▲災害派遣医療チーム(熊本労災病院DMAT)による応急処置

▲土砂崩れにより、人が車内に閉じ込められているという想定で、救助に当たる八代消防本部特別救助隊

5月22日、八代市総合防災訓練が球磨川河川緑地で行われ、市や防災機関、民間協力団体など約700人が参加しました。これは、防災関係機関における災害応急活動時の対処能力の向上や相互の連携強化、住民の防災意識の向上を図るために毎年開催されています。

第1部では、1時間に50ミリ以上の大雨が継続的に降り続き球磨川の水位が氾濫危険水位に達したとの想定で、情報収集伝達訓練や避難と物資輸送訓練、土砂災害救出訓練などが行われました。

第2部では、新八代駅構内でテロ行為を実施するとの予告電話の後、同駅構内に何らかの物質を散布されたとの想定で、情報伝達や交通規制、救出救助活動、原因物質検知(除染作業)などの訓練が行われました。各関係機関が連携し、丁寧に確認作業を行い、いつも機敏な動きで、実践さながらの訓練となりました。

地元チームが優勝 全国シニアソフトボール熊本県八代大会



▲全国から多くの選手が集まり、行われた開会式



▲開会式で選手宣誓を行う上野盛隆主将

全国シニアソフトボール熊本県八代大会の開会式が、5月16日、市総合体育館で行われ、全国各地から県勢13チームを含む51チーム約800人の選手が集まりました。今年が32回目、八代での開催は18年ぶり2回目です。

全国シニアソフトボール連盟の中村卯汰郎会長が「新しい友情の輪を一層広げ、思い出深い心温まる大会にしてください」とあいさつ。ASエンジェル古閑出の上野盛隆主将が「シニアソフトボールの名誉と誇りを胸に、正々堂々戦うことを誓います」と力強い宣誓をしました。

翌17日から3日間、球磨川河川緑地を舞台に熱い戦いが繰り広げられ、決勝戦は地元八代のASエンジェル古閑出と佐世保はまなす(長崎)が優勝旗を賭けてプレイボール。2回に3点を先制したASエンジェル古閑出が、その後も得点を重ね、10対0で快勝し初優勝を決めました。

新しい親子の憩いの場

こどもプラザ「わくわく」オープン



▲ままごと・玩具コーナー



▲関係者によるテープカットでオープン

6月1日、こどもプラザ「わくわく」がイオン八代ショッピングセンターの2階にオープンしました。

主に乳幼児(0〜3歳)を持つ子育て中の親子が気軽に集い、楽しく遊べるスペースとして市が開設したものです(場所はイオン九州が提供)。平日の午前10時から午後3時まで無料で利用することができます(個別相談の場合は午後4時まで利用可)。144㎡のフロアに、赤ちゃんコーナーや相談室などがあります。

運営は「子育てサークルネットワーク・レインボー」が行い、子育てアドバイザー3人が常駐し、子育ての悩みの相談にも応じます。また、子育てに関する情報の提供や講座を定期的に開催します。

田中北町の中川秋絵さんは「『すくすく』へは週に2〜3日、子どもと出かけています。わくわくの利用も楽しみです」と話しました。

八代の文化や芸術を体験

米国の美術学部学生が学習旅行



▲上野窯で象がんの作業を見学

米国のシエラネバダ大学とオーシャンカントリー大学の美術学部の学生など28人が、5月25日から29日まで単位取得のため八代市を訪れ、文化や芸術などを学びました。

これは、市と県、県観光連盟などが協同で進めている外国人観光客誘致事業の一環です。

学生たちは、五家荘や松濱軒、上野窯、呉服店などを訪問。五家荘では習字や観光、松濱軒では茶道を体験しました。

シエラネバダ大学のハンナ・スレーターさんは「八代で学んだ技法をアメリカで広めたい。短時間だったが、とても刺激を受けた」と話しました。

100歳 おめでとうございます



松岡 ムツさん
(豊原中町)
大正3年6月3日生



山口 シズカさん
(敷川内町)
大正3年5月25日生

息子夫婦のサポートを受けながら、一人暮らしをしているムツさん。高田で生まれ育ち、教師を勤め、結婚して4人の男の子を育てました。年に1度の家族会で、子どもや孫、ひ孫と会うことが一番の楽しみ。長寿の秘訣は「よくかんで食べる。そして子ども、孫、ひ孫が支えます」。

現在、2人の息子さんと暮らしているシズカさん。金剛で生まれ育ち、結婚して4人の子どもの授かりました。2階の部屋から、近所の眺めを毎日楽しんでいいます。魚の煮付けなどの料理を楽しむシズカさんの長寿の秘訣は、「自分の好きなものを食べる」こと。

かき殻を使って水質浄化

氷川ダムかき殻まつり



▲リレーして運んだかき殻を投入

6月8日、氷川ダム湖で「氷川ダムかき殻まつり」が開催され、市内全高校の生徒や企業など多くの人が集まり、水質浄化活動を行いました。これは、次世代のためにがんばる会の主催で、今年で3回目。かき殻を使用した水質浄化と、世代間や地域との交流を目的に行っています。今回は900袋のかき殻と約50袋の木炭をダム湖に投入。かき殻には微生物のすみかとなる効果や、汚れの原因であるリンと結合する効果があり、水質を浄化します。

次々と運ばれてくるかき殻を排水路からダム湖への流入部に敷き詰めた、八代工業高校1年の中岩匡志さんは「環境保護に携われて、とても充実感がある。次回も参加したい」と話しました。

干潟観察会



▲干潟の生物を探る参加者

5月17日、大島で干潟観察会が開催され、市内の小学生など約30人が参加しました。干潟の生物と触れ合うことで環境への意識を高めることを目的に市が開催しました。まず学習会で干潟のでき方や生き物の生態系について学び、その後、実際に干潟に出て観察を行いました。子どもたちはスコップを使い、ゴマフダマヤオサガニなど、たくさん生き物を見つけたことができました。捕まえた生き物の名前や特徴などを学び、最後に生き物を干潟に返しました。

松野倭子さんは「前に歩くカニ（マメコブシガニ）を見つけ、楽しかった」と語りました。

八代広域行政事務組合消防表彰



▲表彰された川田文子さん



▲表彰された米田康徳さん(左)と反頭きよ子さん

5月4日に大福寺町で発生した集合住宅建物火災で、居住者の救助活動を行った植柳町の川田文子さんに、6月2日、八代広域行政事務組合管理者の中村市長が市役所で表彰状を贈りました。

川田さんは、車で移動中に火事を発見した夫と現場へ向かい、女性が火災建物の中で意識もうろうとして倒れているのを発見。夫に救助協力を求め、119番通報を行いました。その後、2人で屋外へ女性を救出し、安全な場所まで避難させました。

早期の発見と迅速かつ適切な救助活動により、居住者は大事に至りませんでした。

4月28日に千丁町太牟田で発生した一般建物火災で、救助活動を行った反頭きよ子さんと米田康徳さんに対し、6月2日、八代広域行政事務組合管理者の中村市長が市役所で表彰状を贈りました。

反頭さんは、近隣の住宅から煙と燃えるような音がするのを確認したため、居住者と周囲へ火災を伝えました。声に気づき駆けつけた米田さんは、自力避難が困難な高齢の女性がいることを聞き、車いすで女性を外に救出し、安全な場所まで避難させました。

早期の発見と迅速かつ適切な救助活動により、居住者は大事に至りませんでした。



ふるさと納税寄附



▲寄附金を手渡す田口武さん（右）

現在、東京でリサイクル会社を営んでいる千丁町出身の田口武さんが5月30日、市役所を訪れ、ふるさと納税として寄附金100万円を中村市長へ手渡しました。今回で7回目の寄附となります。

ふるさと納税制度は、住んでいる地域以外のふるさと（貢献したいと思う都道府県や市区町村）へ税を寄附金として納めるものです。寄附をした場合、翌年度の個人住民税が一定額まで控除されます。

田口さんは「人材育成や事業成長に役立ててほしい」と話しました。

熊本南パイロットクラブ 交流会コンサート



▲障がいのため同時に複数のことをすることはむずかしいと言われている中、ギターを演奏しながら歌う一ノ瀬たかしさん

熊本南パイロットクラブによる交流会コンサートが5月29日、八代ホワイトパレスで行われ、約170人が参加しました。同クラブが18年前から続けている支援奉仕活動の一環で、交流コンサートは3回目です。

歌を披露したのは、山鹿市の歌手・一ノ瀬たかしさん。一ノ瀬さんは、若い頃に心臓発作で心臓が停止したものの、奇跡的に生還。脳に大きな障がいがあり、辛いリハビリ生活の中、歌に救われたそうです。

コンサートでは、「僕の道しるべ」や「歩いてみたら」のオリジナル曲などを披露しました。

水墨画を市に寄贈



5月27日、萩原町の頼藤小枝子さん（雅号 頼藤野草花さん）が平成24年に日本水墨院展で特選を受賞した作品を市に寄贈するため、市役所を訪れました。

作品は、水墨画30号（約91cm×73cm）で、タイトルは「堰・あゆむ」。球磨川の堰を開けたときに、急流に逆らって力強く廻る鮎の姿が描かれています。頼藤さんは「見ていて元気になるような絵を描きたい」と思い、筆を執った作品です」と話しました。

寄贈された絵は、さかもと温泉センタークレオンに展示されています。

モニュメント「きらり」の清掃活動



▲作業を分担し、手際よく清掃を行うサンクリン九州八代営業所の社員

6月6日、清掃サービスや環境品質マネジメントなどを行っているサンクリン九州八代営業所の社員16人が、地域社会への貢献を目的に、新八代駅前モニュメント「きらり」を清掃しました。同社による清掃は定期的に行われており、今回で4回目です。

日頃の業務で培った手際の良い作業により、壁面は丁寧に拭き上げられ、周辺の黒く汚れたベンチや床は、スポンジやデッキブラシを使って磨かれ、見る見るきれいになりました。

「きらり」は、訪れた人を気持ちよく迎えるシンボルとして、元の美しい姿を取り戻しました。

父の日に牛乳を贈ろう



▲贈呈に訪れた八代地域農協酪農女性部の皆さん

6月5日、八代地域農協酪農女性部の9人が市役所を訪れ、永原辰秋副市長に牛乳を手渡しました。

同部会は、牛乳の消費拡大や酪農への理解を深めてもらおうと、平成10年から父の日に合わせ「父の日に牛乳を贈ろうキャンペーン」を実施しています。

永原副市長は「美味しい牛乳をありがたうございます。これからも体調管理には気を付けて、牛乳を飲み続けたい」とお礼を述べました。

第四中学校新体育館 落成



▲完成した体育館と武道場（左）

5月30日、「八代市立第四中学校新体育館落成式」が開催され、地域の人たちなど約500人が集まりました。

教育施設の耐震強化策の一環として建て替えられたもので、広さはバドミントンコート6面が取れるサイズに拡大されるとともに、併設の武道場も約2・7倍に拡張されました。

3年生の成松海悠さんが「新しい体育館で新しい伝統を作ります」とお礼の言葉を述べるとともに、四中吹奏楽部の演奏で完成を祝いました。